

世界初のクローンマウス「キュムリーナ」がスミソニアン博物館に収蔵されました

2022年5月25日 トピックス

1997年2月、スコットランドで史上初となる哺乳類のクローン（羊のドリー）が発表されました。それまで高等動物のクローンは不可能と信じられていたため、大ニュースとなりました。ところが、羊を使う実験は牧場や手術室が必要で簡単に実験することができないため、しばらくの間誰も再現せず、哺乳類のクローンには本当にできるのだろうか、と疑われ始めました。そのような状況で、当時ハワイ大学にポスドクとして留学していた本学、発生工学研究センターの若山教授らはマウスのクローンを作ることに初めて成功しました。マウスは小型で扱いやすく世界中で利用可能なことなどから、マウスのクローンは世界中で作られるようになり、クローンの研究が一気に進み始めました。マウスのクローンは、哺乳類としては羊に次いで2番目の成功ですが、クローンの研究においては世界で一番貢献した動物なのです。

世界初のクローンマウス「キュムリーナ」は、寿命を全うした後、はく製にされ、ハワイ大に飾られていましたが、このたび、アメリカのスミソニアン博物館に収蔵されることになりました。スミソニアン博物館はアメリカを代表する科学や歴史の施設であり、そこに収蔵されるということは、キュムリーナが科学的に名を残す重要な成果だと認められたこととなります。

展示はこれからですが、スミソニアン博物館が発行している雑誌において、キュムリーナの紹介が掲載されました。

<https://www.smithsonianmag.com/smithsonian-institution/mouse-squeak-history-science-180980041/>



キュムリーナの
2歳の誕生日を
祝っている様子